

山梨県立博物館

Yamanashi Prefectural Museum

交

い

かいあむ通信

kai

第46号

平成29年6月15日発行
山梨県立博物館

kaiリニューアルしました！



夏期企画展

人類と宇宙

ほしぞら れきしものかげり
— 星空をめぐる歴史物語 —

2017年 7月15日(土) ~ 8月28日(月)

太古の人々による天文観測から、最新の科学技術による宇宙開発まで、人々が宇宙に挑み続けてきた足跡をたどります。

表紙およびこのページの四神とキトラ古墳天文図のイラストは、東京国立博物館図録『特別展キトラ古墳壁画』p38-46を参考に作成しました。

いにしえ
古の天文図をのぞいてみよう

世界最古の本格的な天文図！

キトラ古墳壁画天文図

奈良県明日香村のキトラ古墳（7世紀末～8世紀初め）の石室天井に描かれた天文図。金箔で表現した星々を朱色の線でつなぎ、「星官」と呼ばれる古代中国発祥の星座を表しています。

*図の白い文字が星官です。

実際に星を見てみよう！

★は街中でも観察しやすい明るい星です。西洋星座と比較しながら観察してみてください。

ここに注目！

天文図の4つの円

この4つの円から、昔の人々が精密な天体観測を行っていたことがわかります。

円A《内規》

天の北極点を中心として、1年を通して見える星々の範囲

円B《黄道》

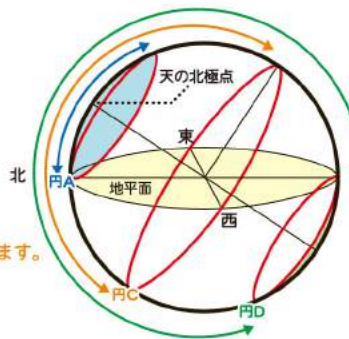
太陽の通り道（写し間違えが、正確な黄道の位置からずれています）

円C《天の赤道》

地球の赤道を空に広げた範囲。星の位置を決める基準になります。

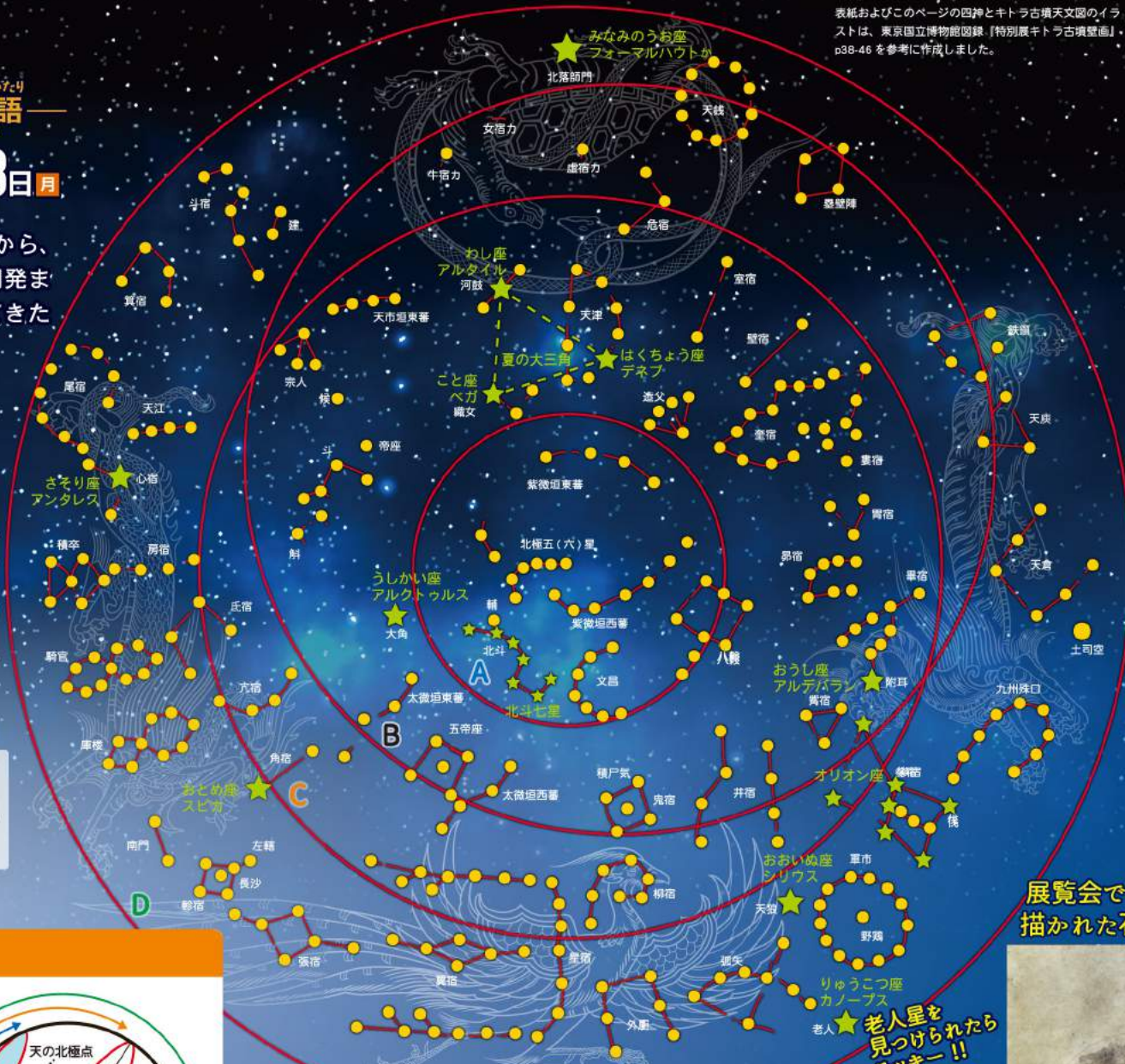
円D《外規》

観測者から1年のうち少しでも見える星々の範囲



展覧会関連イベント盛りだくさん！詳細はホームページなどをご覧ください。小惑星探査機「はやぶさ」の実物大模型も展示します！会期中無休。

観覧料 一般500円、大学生250円、高校生以下の方、県内在住の65歳以上の方、障害者の方（およびその介護をされる方）は無料です。



展覧会では天文図が描かれた石室を再現！！



ここに注目！ 古代中国の星座「星官」

古代中国では星空は世の中のようなものをうつしたものと考えられ、世界の中心の北極星が皇帝、その周りを皇族、官僚、軍隊、庶民といった星座がとりまいています。北極星から遠ざかるほど庶民的な星座になります。また、天の赤道沿いの星座は二十八宿と呼ばれ、4方位7星座ずつに分けられ、四神（青龍・玄武・白虎・朱雀）に見立てられています。

キトラ古墳天文図（国・文部科学省蔵）
提供：奈良文化財研究所 *表示は複製

学芸員 おすすめの一品

収蔵資料の見どころを
ご紹介します。

サタデーナイトフィーバー と呼ばないで…

この期間に
会える！
6月21日～
12月18日
常設展『信仰の足跡』
コーナー

ざ おう こんげんりゅう ぞう
蔵王権現立像 平安時代

日本で修験道をはじめたとされる役行者が吉野の金峯山で修行していた時、人々を救う強い力を持った神仏を願ったところ、現れたのが蔵王権現です。

ほぼ同じ髪型、
約の〇〇件！

なんと顔の両側の三角
形は逆立った髪の毛！

恐ろしい顔!?

髪を逆立てて恐ろしい顔をしているのが蔵王権現の特徴ですが…この像はなんとなく愛嬌のある表情をしていると思いませんか？

蔵王権現の決めポーズ

右足を踏み上げて左足一本で立ち、右手を振り上げ、左手は刀(剣)印と呼ばれる印を結んで腰にあてる姿は、岩から躍り出たときの様子を表しています。

腰に「虎の皮」は蔵王権現の証！

耳や目、牙があるのはわかるけど、あまり虎って感じがしない…

トラ!?

まるで赤ちゃんの足

ふん張ってる足は筋骨隆々！
だけど足の甲はぷっくり！

このギャップが
たまらない…

白い足がキュート

くろ こま たい し ぞう
黒駒太子像 (富士曼荼羅図) 室町～桃山時代
聖徳太子が黒駒にまたがったところ空に飛び立ち、3日後に富士山などを廻って戻ってきたという説話をもとに描かれたものです。

黒駒にまたがる聖徳太子

子どもみたいに可愛らしい姿ですが、この時なんと27歳。

聖徳太子と甲斐の黒駒

その昔、聖徳太子は全国から集めた名馬の中から、甲斐の国から献上された足先が白い黒駒を「これこそ神馬である！」と選り出され、召使いの調子鷹に世話させられたといいます。

素朴な富士山ですが、左右に太陽と月が描かれていて、この絵が信仰の対象とされたことがわかります。

甲斐の黒駒

チャームポイントは白い足先！
聖徳太子を乗せて富士山までひとつ飛び！

黒駒のお世話係・調子鷹

歴史の教科書で
おなじみの人も！

聖徳太子ゆかりの4人です。



常設展 テーマ展示

県立博物館では、約2か月ごとにテーマを変えて、常設展の展示替えをしています。

* 展示資料は事前の予告なく変更になることもございます。ご来館前のご確認をおすすめします。

「ようこそ！かいじあむ動物ワールドへ」

2017年 6月21日(水)～9月11日(月)

すっごーい！ 山梨にはこんなにたくさんの動物たちがいたんだね。かいじあむ動物ワールドには、人といっしょに働いた動物、狩りのための動物、観て楽しむ動物など、たくさんの動物たちがいるよ！

「かいじあむ定食、召し上がれ」

9月16日(土)～12月18日(月)

険しい山に囲まれていながらも、古くから海産物を消費するなど、独自の豊かな食文化を築いていた山梨。豊かな食材(資料と作品)たっぷりのかいじあむ定食、どうぞ召し上がれ！

「年の初めはかいじあむ」

12月20日(水)～2018年 2月19日(月)

お正月にちなみ、「おめでたい」「ありがたい」資料を取り揃えて展示します。年の初めは博物館で招福！

この期間に
会える！
6月21日～
8月1日
常設展『信仰の足跡』
コーナー



甲府徳川家

約50年間、甲斐を中心に35万石を支配した甲府徳川家。新井白石や関孝和など著名な藩士の活動も含め、その知られざる姿をご紹介します。

観覧料 一般1000円、大学生500円



《甲斐国絵図》(部分 当館蔵)

よみがえる！ 甲府道祖神祭り

江戸時代、甲斐国の祭りの中で最も盛大だとされていた甲府の道祖神祭り。新発見資料も初公開。幻の祭りの華やぎが、博物館でよみがえります。

観覧料 常設展観覧料でご覧いただけます。
一般510円、大学生210円



歌川広重《甲府道祖神祭幕絵 東都名所 目黒不動之瀧》(当館蔵)

芳年 激動の時代を生きる 鬼才浮世絵師

江戸から明治へと変遷する時代に活躍した月岡芳年は、武者絵から美人画まで幅広い画題を手がけた浮世絵師です。激動の時代を生きた芳年の作品を一挙公開し、その姿に迫ります。

観覧料 一般500円、大学生250円



月岡芳年《芳流閣再遊戯》(個人蔵)

*観覧料の割引料金等につきましては、ホームページなどでご確認、またはお問い合わせください。

イベントのご案内

*各イベントの詳細はホームページなどでご確認ください。日程や内容は事情により変更になることもございます。

常設展スルーガイド

常設展のガイドツアーです。
毎週土曜日 11:00～11:30

かいじあむ子ども工房

博物館ならではの体験や工作ができます。

開催日 6/10、7/8、8/12、9/9、10/14、11/11、
1/13、2/10、3/10

かいじあむ古文書講座

初めて古文書を学ぶ方のための講座です。

開催日 6/24、7/22、8/26、10/28、11/25、
1/27、2/24

時間 13:30～15:00

*申込み(県立博物館 TEL055-261-2631)



ボランティアによるお庭の見どころガイド

四季折々の博物館のお庭を散策します。

開催日 6/17、7/15、8/19、9/16、10/21、11/18、12/16、
1/20、2/17、3/17

時間 13:30～14:30

*天候により、内容を変更する場合がございます。

遊ぼう!学ぼう!寺子屋ひろば

展示や歴史を楽しみながら学べる体験イベントです。

毎週日曜日 11:00～11:30



館長トーク

当館の平川南館長が、最新の研究成果について語ります。

開催日 7/16、9/10、11/19、1/21、3/18

時間 13:30～15:00

古文書相談日

お手持ちの古文書についての相談を承ります。

開催日 7/9、9/10、11/12、1/14、3/11
時間 10:00～13:00

*古文書の全文解読や、資料の鑑定などお受けできない内容もあります。
*申込不要ですが、事前のご連絡があれば対応がスムーズです。

(県立博物館 TEL055-261-2631)

その他イベント

夏休み自由研究プロジェクト 合同プレゼン

7/17(海の日) *会場はアイメッセ山梨です。

夏まつり 8/14・15

秋まつり 11/20(県民の日)

お正月 1/2・3



*イベント毎に内容は異なります。





かいじあむトピックス

旬な話題をお届け！

奇跡の発見！甲府道祖神祭り関連資料

「甲府道祖神祭り」は歌川広重の「幕絵」で知られ、江戸時代の甲府城下町を語る上で欠かせないエピソードです。しかし明治初期に廃絶し、空襲により資料も焼失したと考えられることから、全容は解明されていません。

最近、この祭りに関わる重要な発見がありました。甲府きつての商家のひとつ、十一屋が所蔵する資料群を調査した際に祭礼用具が見つかったのです。木箱に納められた立派な木彫品は、何と大正時代に若尾謹之助わかおきんのすけによって記録された飾りとはほぼ一致するものでした。奇跡的に戦禍を免れ、現代に伝えられたこの資料は、2018年お正月の展覧会「よみがえる！甲府道祖神祭り」で展示します。幻の祭りに新たな光がともる瞬間を、どうぞお見逃しなく！



資料発見時の様子



四猿のうち「以手當耳不聞世悪」(聞かざる)

ツイッターで「女子部」活動中！

おかたいイメージの山梨県立博物館…そこで、女子目線で博物館の魅力をお伝えする「女子部」を作っちゃいました。おしゃれでかわいい情報や、普段見ることのできない博物館の裏側をご紹介します。ぜひ、山梨県立博物館のツイッターをチェックしてみてください。

kaiseum_ypm



4月7日のツイートより

フォローする！

☆女子部☆「けんぱく裏話」
ポケットのたくさんあるエプロンとお道具入れ。
その中にはいろんなグッズが……。実はこれ、
展示替え時の学芸員(部員 M)の格好です☆こんなものも使うの!?という道具もあるかもしれませんわ。(部員 M)



利用案内

開館時間 9:00～17:00(入館は16:30まで)

休館日 火曜日(祝日の場合はその翌日)*7/18～8/22の期間は火曜日も開館します。

観覧料 常設展:一般510円、大学生210円

*高校生以下の方、65歳以上の方、障害者の方(およびその介護をされる方)は無料です。

*企画展には別途観覧料が必要です。県外在住の65歳以上の方は企画展観覧料が必要です。

*割引料金等につきましてはホームページなどでご確認、またはお問い合わせください。

かいじあむ通信「交い」第46号

〒406-0801 山梨県笛吹市御坂町成田1501-1

Tel: 055-261-2631 Fax: 055-261-2632

E-mail: kenhaku@pref.yamanashi.lg.jp

URL: http://www.museum.pref.yamanashi.jp

発行日: 2017年6月15日

編集・発行: 山梨県立博物館



ホームページ
QRコード



山梨県の古い国名「甲斐国」の語源は街道と街道の結節点を意味する「交い(かい)」であるという説があります。山梨県立博物館が「甲斐」の博物館にふさわしく、人々や情報の交流の拠点となることを願ってこの名前をつけました。